



● 国産材の利用量

昭和30年代（1955～1964年）は和歌山県産を主とする国産材が多く使われていました。しかし昭和40年代（1965～1974年）に入ると、輸入材の利用量が多くなり国産材はあまり使われなくなりました。さらに輸入材も平成の時代に入った頃から使われることが少なくなり、木材全体の利用量が大きく減ってきています。

日本では、戦後の復興期（昭和20年代）から高度経済成長期（昭和30～40年代）にかけて多くの木材が必要とされ、国産材が大いに利用されたため、林業は盛んな産業の1つでした。その後は不足した国産材を補うために、安価な輸入材を利用することが多くなり、平成の時代に入って景気が低迷すると、住宅を建てる人が減り、木造でない建物が増えたことなどが原因となり、需要は減少。

こういった背景があり、林業を仕事とする人は減っていきました。しかし現在は、自然を相手にする仕事に興味を持って取り組む人も増えてきており、平成17年（2005年）と平成22年（2010年）とを比較すると、300人ほど林業従事者数は増えています。